

4 地域福祉を支える担い手の育成

県内では、生涯学習の中での福祉教育や高齢者や子どもの世代間交流で、住民の支え合う意識を高めたり、社協主催のワークキャンプ等でボランティアを育成するなど、地域福祉を支える担い手の育成が行われています。

ここでは、そのような人材育成の取組を紹介します。

(1) 福祉教育

社協が中心となって福祉教育セミナーや小・中学校での出前福祉学習などが実施されています。

ここでは、子どもの時から正しい福祉の知識を身につけ、いろいろな人とふれあう福祉教育の充実を図っている活動を紹介します。

福祉学習で思いやりの気持ちを ～牛深市社協～

牛深市の学校では、総合的な学習の時間に「福祉」を学習するところが増えており、市内の福祉の現況について学習したり、疑似装具を使っての体験、車椅子体験、アイマスク体験、訪問入浴車体験、施設での介護体験、訪問入浴・訪問介護体験など、いろいろなメニューを実施しています。

また、牛深市の福祉への取組、地域で活躍している人、社会福祉資源などを紹介し、地域での福祉の取組みの参考となるような福祉副読本を作成し、学校に配布しています。

【福祉副読本】



福祉出前講座で車椅子体験 ～鹿北町社協～

小中学校の社会科や総合教育の授業で、平成15年度から車椅子体験等の福祉の出前講座を実施しています。

始めに社協の福祉活動専門員らがボランティア活動についての講話を行って、ホームヘルパーらが車椅子体験等の指導をしています。



【車椅子体験】

子ども達は段差の昇降に「思ったより力がいります。」などと新たな発見をしています。

また、平成14年度は、山鹿市の身体障害者療護施設愛隣館の入所者と電動車椅子サッカーの試合をするなど、日頃から障害者と子どもたちとの交流を図っています。

(2) ボランティア育成

県内では、社協で実施されているワークキャンプに、平成14年度4,558名(81市町村社協実施)が参加し、またボランティア協力校も延べ466校と年々伸びており、ボランティア等に対する関心も高まっています。

ここでは、地域住民みんなで支え合う意識やボランティア活動等への参加意欲を高めていくための活動を紹介します。

こどもヘルパー大活躍 ～産山村社協～

県内でも高齢化率が高いこの村では、介護や見守り活動などの支援をどうやっていくかが大きな課題でした。

そこで、小学校の児童たちが中心となった「こどもヘルパー」活動を実施し、高齢者の話し相手や掃除や草取り等の生活支援を行っています。

子供たちと高齢者の世代をこえた交流は、子ども達に人を思いやる気持ちが芽生え、高齢者は孤独感を解消するだけでなく、村全体の活気にもつながっています。



【こどもヘルパー高齢者宅の
草取りをお手伝い】



自分たちにできることからボランティア ～植木町ボランティアの会コスモス～

自分たちにできることを少しずつ行っているボランティアグループで、毎月定例会を実施し、研修を行ったり、月に2回は、老人福祉施設等に出かけ、支援しています。

【活動の内容】

- ① 入所者への入浴時の衣服の着脱、洗髪後のドライヘアーなど
- ② 納涼祭、餅つき大会等の手伝い
- ③ 障害をもった人の筋力トレーニングの補佐
- ④ 施設で出る廃油を利用した石鹸作り(役場の窓口にて販売)

活動日 → 第2、第4木曜日(月に2回)



【活動プラス1】

精神障害者の総会及び家族会、県のスポーツレクリエーション大会、共同作業所の手伝いなど、要請がある時に参加しています。

音声訳ボランティア育成 ～NPO法人ウィンディ21やまが(山鹿市)～

「誰もが心豊かに、人として生きている喜びを感じられる社会づくり」を目指し、ボランティア活動やボランティアの養成などを行っています。

【活動の内容】

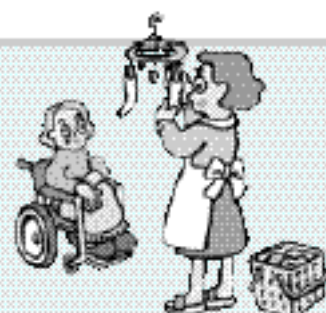
- ① 視覚障害者への音声訳ボランティア(月に2回程度)
- ② 音声訳ボランティアの養成
- ③ 住民の異業種間交流
- ④ 伝統芸能紹介による文化芸術の振興
- ⑤ 男女共同参画社会実現のための講演会等の啓発



【スタッフの声】

「会員や住民の力を社会資源として、活用する場所やきっかけづくりを提供して、生きがいづくりにつながる活動にも力を入れています。」

ヘルパー増進計画 ～あさぎり町～



高齢化率の高いあさぎり町では、地域での介護の実践や介護予防が重要であり、地域住民に広くその重要性を理解してもらうため、町民すべてがヘルパー3級の取得を目指すことにしました。

ヘルパー3級は、取得が比較的簡単であり、老人福祉の概要や町の実情等を町民が理解する良い機会にもなっています。

町民自身も、誰もが安心して生活できるような地域づくりのために、地域を支える人達を増やしていきたいと願っています。

平成15年度から実施され、定員40名に対して、それ以上の応募があっており、想像以上の熱心さで、多くの方が資格取得を目指しています。

また、資格取得後、施設のボランティアとして講習で得た知識を活かす人もおり、そこでの経験がさらに学習意欲を駆り立て、2級の取得を希望する人も出てきています。



だれでんボランティア養成 ～菊鹿町社協～

高齢化率が31.9%(県内22位:H14.10.1)ながらも、生活保護率(県内93位:H14.3.31)、1人当たりの老人医療費(県内84位:H13年度)が県内でも低い菊鹿町では、野菜を隣近所に配ったり、ボランティアによる健康づくりが盛んに行われるなど、住民同士の支え合い活動が活発な地域でもあります。

菊鹿町社協では、住民一人ひとりがボランティアとして支えるまちを目指して、ボランティアセンターが中心となって様々な事業を行っています。

受給調整機能

- ① ボランティアを希望する人の登録(フレンド登録者数415名 町民の5.2%)
- ② ボランティア募集
 - ・災害救助ボランティア
 - ・イベントボランティア(1日お父さん事業)
 - ・サロンボランティア(現在333名)
 - ・配食ボランティア(現在25名)
- ③ ボランティアを求める施設、団体、個人との調整
 - ・旅行の際の介助ボランティア(施設から)
 - ・施設入所者との話し相手(施設から)
 - ・転倒予防教室のボランティア(町から)
 - ・総合的な学習の時間の中で、ボランティア活動をしている人や障害を持った人の話を聞きたい(学校から)

学習提供機能(人材育成)

- ① ボランティア講座の企画、運営
 - ・サロンボランティア養成講習会(年1回)
 - ・ホームヘルパー3級養成講習会(年1回)
 - ・レクリエーションインストラクター養成講習会(年1回)
 - ・子どもボランティアリーダー養成講座
- ② 手話講習会の企画→手話教室「てんとう虫の会」の誕生
- ③ ふれあいサロン合同交流会、80歳以上ひとり暮らしのサロン会等の企画
- ④ ワークキャンプ、ボランティアスクールの企画
- ⑤ 総合学習の時間での学習の場、器材、ノウハウの提供
 - ・施設や福祉団体等との連絡調整(障害者との交流会)
 - ・疑似体験、車椅子、アイマスク、福祉用具の貸与
 - ・福祉教育やボランティアへの取組み等ノウハウの提供

情報提供機能

- ① ボランティア連絡会への情報提供
- ② ボランティア保険
- ③ ボランティアグループ紹介
- ④ 広報誌(社協だより)の中で配布【全世帯】

開発・援助機能

- ① ボランティアの発掘、育成(活動の場の開発及びボランティア発掘育成)
- ② キッズサポーター(子どもボランティアリーダー)養成
- ③ ボランティア連絡会(連絡協議会)の立ち上げ支援
- ④ 福祉教育の場の開発



ボランティアの力で阿蘇の草原再生 ～(財)阿蘇グリーンストック～

阿蘇の草原の景観は、1000年以上も前から行われてきた野焼きによって保たれてきました。しかし近年、高齢化と有畜農家の減少などによる人手不足などにより、広大な草原の野焼きが困難になってきており、観光資源としての価値や貴重な動植物の保全が危ぶまれるようになってきました。

そこで、阿蘇くじゅう国立公園の公園管理団体である財団法人阿蘇グリーンストックでは、平成11年から野焼き・輪地切りボランティアを組織し、牧野組合が行う野焼き・輪地切りを支援しています。

ボランティアは、阿蘇グリーンストックが行う野焼き支援ボランティア初心者講習会を受け、春の野焼きと秋の輪地切りの支援を行います。現在のボランティア登録者数は632名(H16.3月現在)であり、県内外から多くのボランティアが阿蘇の草原を守るために活動しています。

また、阿蘇グリーンストックでは、水源涵養のため、阿蘇郡内の森の除草刈りなど、森づくりのボランティアも行っています。



【野焼き支援ボランティア初心者講習会での野焼き体験】

県外の事例も紹介

住民による雪害対策「下駄履きヘルパー」 ～長野県栄村～

長野県栄村は、人口2,641人(H16.1.1現在)、役場から45キロ位離れた集落があり、しかも峡谷を上がって行かなければならない所があったり、冬には大雪で身動きが取れない期間が年間140日もある地域です。

そのような状況では、専門の職業ヘルパーが各世帯を巡回してサービスを提供することはとても不可能であり、そこで誕生したのが、隣近所の住民が訪問介護専門員となってサービスを行う「下駄履きヘルパー」です。

「下駄履き」とは下駄履きで歩いて行ける地域を意味しており、平成12年度の介護保険のスタートに合わせてヘルパー研修を2回開催し、120名の訪問介護専門員を養成しました。そのうち118名が会員登録し、農業従事者や会社員、主婦など様々な住民が、「夜でもいい。」「夕方であればダメ。」「朝がいい。」などの個別の条件付きで訪問介護の業務に就いています。

【村長の声】

「はじめは顔見知りから介護を受けるのは嫌だとか、介護をするのは赤の他人の方がいいとかという声がありましたが、3年が経過した今ではだいたい慣れてきて、隣の人もそんなに抵抗がなくなってきたようです。」

(3) 世代間交流

県内では、社協が中心となって老人会と保育園の交流や親と子どものふれあいなど、世代間交流の取組みを行っています。

ここでは、子どもと高齢者との交流などの世代間交流を通して、お互いを思いやる気持ちを育んでいる活動を紹介します。

村民の憩いの場「のぎく荘」 ～西原村社協～

西原村地域福祉センター「のぎく荘」では、子どもたちが大活躍しています。

日常から、近くの小中学生が学校帰りに立ち寄り、学年の違う子ども達との仲間づくりやふれあい、こどもの英会話教室等が開催されています。ほとんど毎日利用がっており、子どもたちにとって、いつでも気軽に寄れるサロンとなっています。

また、お年寄りとお中学生が話をしたり、一緒にゲームをしたりするなどのふれあいも行われ、一緒に楽しんだ後は中学生が館内を清掃しています。

のぎくまつりでは100人以上の子どもたちがボランティアとして参加し、多くのアトラクション等を実施し、村民の楽しみのひとつとなっています。



【高齢者と子どもと一緒に花植え】

すべての町民が利用できるデイサービス ～西合志町社協～

保健福祉センター「ふれあい館」内のデイセンターでは、4種（介護保険、生きがい型、身体障害者、障害児）のデイサービスが行われ、デイサービスの必要な町民すべてが利用できる環境が整い、障害児11歳から高齢者96歳まで、幅広い年齢層の利用者による交流が行われています。

【福祉現場実習生の声】

「デイサービスを複合させて、同世代はもちろん、世代の違う者同士がふれあうことで、お互いに支え合わなければならないという意識が芽生えていると思います。」



【みんなでお絵かき】
(西合志町社協デイサービス)

地域みんなでグランドゴルフ ～栃本町社協～

核家族社会の中、高齢者と子ども、父母達のコミュニケーションや健康づくりを図ることを目的として、グランドゴルフ大会を実施しています。

1チーム、小・中学生2名、父母一般(20～60歳)2名、高齢者(60歳以上)2名の合計6名で構成し、町内12地区から各地区3チームまでで、合計200名以上の参加があります。年に1回の開催ですが、3世代間の貴重な交流の場になっており、毎年とても盛り上がっています。



毎年、応援に
来ようと思います。



編み物等を高齢者が子どもに伝授 ～NPO法人ナルク熊本支部婦人部(熊本市)～

毎月第2火曜日に熊本市春日小学校を訪れ、昼休み時間に編み物などを教える交流活動「ふれあいの日」を平成13年頃から続けています。

同小学校が数年前から始めた校内の空き教室を利用した「ふれあいサロン」に同NPO法人メンバーの高齢者が参加したのがきっかけで、定期的に交流活動が行われることになりました。

編み物や小物作り、お手玉などを同NPO法人メンバー3～4人で教えています。

【子ども達の声】

「毎月楽しみ。いつかマフラーを作って、来てくれるおばちゃんにプレゼントしたい。」

【高齢者の声】

「子どもに喜んでもらうと、まだまだ私にできることはあると(実感でき)、元気が出ますたい。」

世代を超えて伝承遊び交流 ～一の宮町社協～

町内の高齢者と子ども達との世代間交流を進めようと、同社協が夏の交流キャンプと合わせて企画しています。

町内の保育園児や小学生、老人会メンバーやデイサービス利用者ら約450人が参加。高齢者らがちょんかけゴマやお手玉など伝承遊びの披露や阿蘇たこの会によるたこ作り教室も開かれています。



高齢者宅へ、子どもお弁当宅配 ～池田地区地域福祉委員会(熊本市)～

同地区地域福祉委員会は13年前から高齢者への弁当宅配を行っており、地域に根付いた福祉の現場に触れようと、池田小学校4年生99人がこの活動に参加しています。

児童は20班に分かれ、同委員会のメンバーと高齢者宅を訪問、「体に気を付けて下さい。」などと書いた手紙と一緒に手作り弁当を手渡しています。

【高齢者の声】

「今日は子ども達が届けてくれて、にぎやかでよかったですね。」

(4) 健やかな子どもたちの育成

県内では、子ども達の自然体験や農業体験など、社会性を身につけさせるための取組みがあちこちから行われています。

ここでは、地域で子ども一人ひとりの個性と発達段階に応じて、人間的に健やかに育てていくための活動を紹介します。

わんぱくな子ども達の育成 ～宮地岳わんぱく実行委員会(本渡市)～

地域にある各種団体や地域住民が連携して、地域で子どもを育てる環境の充実を図り、地域の様々な資源や人材を一つのテーマパーク(ONE-PARK)として活用し、子どもたちに様々な体験をさせ、わんぱくでたくましい子どもの育成を図っています。

【活動の内容】

- ① **夏合宿** → 子ども達の自主性を育て、「子育て」「親育ち」の機会とします。
- ② **米作り体験** → 「やりとげる」充実感を体験し、食料と農業の大切さを学びます。
- ③ **炭焼き体験** → 森林の大切さや先人の知恵を学びます。
- ④ **室内オリンピック** → 婦人会主催の室内オリンピックに参加し、世代間交流を図ります。
- ⑤ **鬼火焼き体験** → 準備等は小学生から高校生まで一緒に行い、異年齢の子どもたちとの交流、高齢者との交流を図ります。
- ⑥ **料理体験** → 自分たちが作った米を使い料理を作り、米作りや炭火焼きなどでお世話になった人達を招待し、食事会を開きます。
- ⑦ **川の観察会** → 環境の大切さとふるさととの自然の良さを再認識します。
- ⑧ **高齢者との交流** → 案山子づくりやお手玉づくりを行い、世代間交流を図ります。

心豊かでたくましい青少年の育成 ～NPO法人熊本元気っ子クラブ(熊本市)～

地域の子ども達を対象に、社会・自然・生活活動の体験の実施と、親子を対象に子育て相談所の開設並びに子育てに関するカウンセリングを実施し、心身ともに豊かでたくましい青少年の育成を支援しています。

県内各地のキャンプ場や公園を利用しており、広域的に活動されています。

【サービスの内容】

- ① **不登校児童やその家族の相談・カウンセリング**
- ② **不登校児の学習指導**
- ③ **不登校児の自然とふれあい体験・交流体験**
- ④ **臨床心理士によるカウンセリング**
- ⑤ **保護者対象の勉強会**
- ⑥ **大学生ボランティアによる派遣支援(話し相手・勉強支援)**



子どもの社会性を育む活動 ～NPO法人ヒューマンライフスクール(熊本県)～

「子どもたちの健全育成とシニアの保健福祉の増進」を目的に活動しています。

未来の展望をなかなか描ききれない我が国の状況が、社会の閉塞感や将来への不安を招いているとの思いから、未来を担う子どもたちの健全育成に力を入れています。

幼児期から自然体験で感性を育て、小学生には工場や農場、企業活動等の視察研修などの社会体験で、社会性を育てるなどの活動を実施しています。

立田山を中心に小学校や公民館などを利用して月に1回のペースで活動しています。

【活動の内容】

① 青少年、小・中学生の能力開発支援

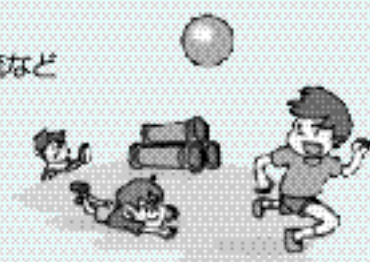
・子育て(人材育成)シンポジウム、子どもと外国人の交流など

② 青少年、小・中学生の自然体験活動

・立田山ほくほく探検隊、農業体験、ほかほかキャンプ等

③ 青少年、小・中学生のボランティア活動支援

・小・中学生ボランティア体験



地域ならではのこだわり教育

～伊予土週末支援子供ランド実行委員会(本渡市)～

地域の自然や人的資源、伝統文化などを活用した、子ども達の健全育成事業を実施し、子ども達の成長を促すとともに、地域の教育力の向上を図っています。

会員は、地域の各団体の代表者12名で構成し、平成14年度は、延べ約500名の参加があります。

【活動の内容】

① スポーツ大会

・グランドゴルフ大会 → 家族や住民同士のふれあいを深め、健康と体力増進を図ります。

・健康の集い → 道目木湖畔(ダム周辺)に集い、交流と健康増進を図ります。

② 自然体験

・いかだ作り、カヌー → 自然に親しみ、ふるさとを再発見します。

・寺子屋塾 → 地元のお寺での座禅会、写仏、住職の説法など行います。

・登山 → 山遊びを通じ、自然に触れ、すばらしさを感じます。

③ 教室

・しめ縄づくり → 伝統工芸を体験し、併せて高齢者との交流を図ります。

